

暁木会会員 各位

平成 19 年 3 月 吉日
 暁 木 会

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、このたび暁木会ニュース第 10 号として、「平成 18 年度総会のご案内」、「第 100 回暁木一水会例会の報告」とともに、澁谷啓教授に「神戸大学の近況」を寄稿していただきました。

不行き届きな点多々あるかと思いますがご容赦をお願いしますとともに、ご意見等ございましたら、末尾の連絡先までご連絡いただきますようお願いいたします。

暁木会平成 18 年度総会の開催について

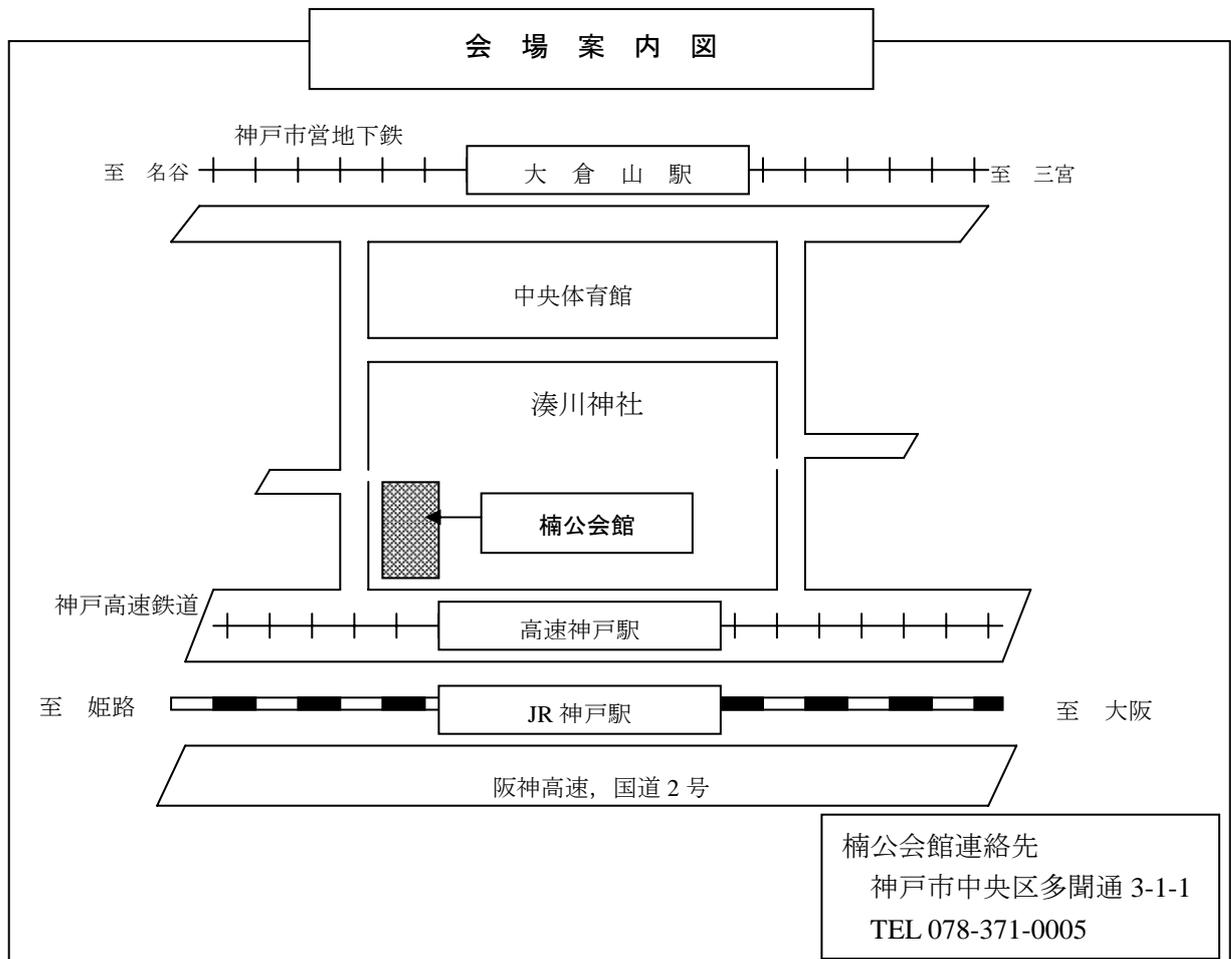
平成 18 年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくをお願いいたします。

■日 時 平成 19 年 3 月 23 日（金） 午後 6 時～午後 7 時

■場 所 湊川神社 楠公会館

（最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅）

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。なお、会費（5,000 円）は当日徴収いたします。



第100回暁木一水会例会の報告

記念すべき第100回暁木一水会例会が、平成19年2月7日（水）18時から湊川神社内の楠公会館で100名という多数の出席を頂き盛大に開催されました。

はじめに、松下代表幹事から25年間という長きにわたり一水会を運営、また支援して頂いた先輩の方々に感謝するとともに、第101回からは暁木会全体の活動とし、今後はさらに若い会員が参加しやすい会にしていきたいとの挨拶がありました。



松下代表幹事挨拶

記念の講演会では、神戸大学都市安全研究センターの沖村孝教授より、「これからの土木」をテーマに約1時間にわたり貴重なお話を頂きました。現在、大学で行われている講義の内容、行政機関の組織の現状、公共事業の談合問題など現在の土木が抱える課題についての説明のほか、人口減少社会、公共投資の減少の中では新たな土木の価値観の構築が必要であり、



沖村先生の講演

これからの土木にとって①快適な都市・地域を創造する、②地球や地域の環境を保全する、③市民の安全を守る、④インフラストラクチャーの維持管理を行うことが役割であり、そのために機能設計から性能設計への転換、維持管理（運営）の重視、ライフサイクルコストの導入等が重要であることを強調されました。

最後に、従来の土木工学を包含した幅広い内容を持つ学科として平成19年度より市民工学科が設立されることが紹介されました。

講演会のあと、これまで暁木一水会を支えて頂いた大先輩で当日ご出席された笹山幸俊氏、宮崎三郎氏、山本潤吾氏、柳田保男氏、実安正氏の5名に記念品が贈呈されました。

その後の懇親会では、学年、職種を超え意見交換が活発になされました。おわりに年代ごとに集合し記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で例会を終了しました。



笹山幸俊氏挨拶



記念写真①



記念写真②



記念写真③

これからの暁木一水会例会について

暁木一水会は、神戸大学工学部土木工学教室と卒業生、および卒業生間の交流を通して相互の啓発と親睦を図るとともに、母校と卒業生の発展に資することを目的に昭和57年2月に設立され、これまで講演会、見学会等を実施してきました。お陰様を持ちまして2月7日、記念の第100回例会を開催することが出来ました。

これからの例会については、暁木会会員の多数の参加を頂きたいと考えており、平成19年5月9日に予定している第101回例会より、暁木会全体の活動とすることにしています。つきましては、暁木会会員の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

1. 開催日 原則2月、5月、8月、11月の第1水曜日。
ただし、5月の例会はゴールデンウィークを外して開催します。

平成19年度の予定

回数	年月日	講 演	講 師
101	H19.5.9	公共団体から主要施策の説明	未 定
102	H19.8.1	講演会	一般の講師
103	H19.11.7	見学会	
104	H20.2.6	講演会	母校の先生

2. 場 所 楠公会館（湊川神社内） TEL 078-371-0005
3. 会 費 4,000円
4. 案 内 各回、開催日の20日程度前に暁木会ホームページの行事予定のところに掲載いたします。

ホームページアドレス <http://www.gyoubokukai.jp>

なお、暁木一水会の会員の皆様には、これまで通り、E-mail または往復葉書でご案内いたします。

母校の近況報告

平成18年度教室主任 澁谷 啓

暁木会会員諸兄には、常日頃から多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成19年4月に、いよいよ最先端の研究を重視した工学系大学院大学としての船出の時を迎えます。教室の教員は工学研究科、都市安全研究センター等の教員は自然科学系先端融合研究環という新しい大学院組織にそれぞれ所属します。さらに、これまでの「建設」・「土木」の専攻・学科名に代わって、「市民工学専攻」、「市民工学科」が新たに誕生し、工学部6学科および工学研究科6専攻となり、B-M-D（学部－修士－博士）一貫教育体制が実現します（表1参照）。

市民工学とは、土木工学を基盤とした公共利用のための社会基盤施設の建設と保全を通じて、安心・安全で環境に調和した市民社会を創造することを目指す工学領域と位置づけています。人間安全工学と環境共生工学の2つの大講座から構成され、専門分野の学問的体系化を図り、21世紀の市民社会が必要とするパブリックサービスの担い手となるための専門基礎知識、広い視野さらには高度な創造性を持った人材の育成を目指します。詳細は、<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/eng-civil/newcivil/> をご参照下さい。

昨年4月に、楢田泰子助手が助教授に昇任され、10月には、鳥取大から喜多秀行教授が着任され、都市安全研究センターの上西幸司助手が助教授に昇任されました。一方、4月から職制が若干変わります。助教授は准教授に、現在の助手(Research Associate)のなかで審査を経て一定基準以上の研究実績があると認められれば助教(Assistant Professor)となります。今後は、「学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する」ことが、教授、准教授、助教に共通の職務となります。表2は、来年度の教員表（予定）です。

昨年末に、教育のISOとも言うべきJABEEを受審しました。可否の正式な発表は来年度初めですが、お蔭様で良いご報告ができそうです。JABEEに合格しますと、以降の卒業生は技術士補の資格が無試験で与えられます。審査では、OB/OGと教室との連携を問う項目があり、暁木会と教室との緊密な連携（奨学金制度、優秀学生表彰制度、プロマネ対応特別講義、等）が、審査員団から高く評価されました。

就職は、お蔭様で売り手市場です。これまで、30社にも及ぶ企業が教室独自の就職説明会に参加され、数多くのOBの方々が熱心にご説明下さいました。人生の岐路においては、しばしば理よりも情が勝ることを実感させられます。

このように、暁木会の会員の皆様方からの多種多様なご支援が着実に教室のパワーとなっています。土木系教室を代表して、重ねて御礼申し上げますとともに、今後の更なるご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

表1 平成19年4月からの学部・大学院一貫教育システム〈予定〉

工学部（6学科）			大学院工学研究科（6専攻）			
[学科名]	[定員]		[専攻名]	[定員]	[定員]	[講座名]
建築学科	90名	→	建築学専攻	65名	8名	空間デザイン 建築計画・建築史 構造工学 環境工学
市民工学科	60名	→	市民工学専攻	43名	6名	人間安全工学 環境共生工学
電気電子 工学科	90名	→	電気電子工学 専攻	65名	8名	電子情報工学 電子物理工学
機械工学科	100名	→	機械工学 専攻	78名	10名	熱流体エネルギー 材料物理 設計生産
応用化学科	100名	→	応用化学 専攻	73名	10名	物質化学 化学工学
情報知能 工学科	100名	→	情報知能学 専攻	74名	12名	情報基礎 情報システム システムデザイン

表2 平成19年4月からの市民工学専攻・市民工学科の新たな教育研究体制

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全 工学	構造安全工学	川谷充郎		野村泰稔*
	地盤安全工学	澁谷 啓	加藤正司	河井克之
	交通システム工学	喜多秀行	竹林幹雄	長江剛志*
	地盤防災工学	田中泰雄*	吉田信之*	
	地震減災工学	高田至郎	鍛田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎		神吉和夫
環境共生 工学	環境流体工学	中山昭彦		
	水圏環境工学	道奥康治	宮本仁志	
	地圏環境工学	沖村 孝*	上西幸司*	鳥居宣之*
	広域環境工学	飯塚 敦*		斉藤雅彦*
	都市保全工学	森川英典	芥川真一	
	都市経営工学	朝倉康夫	富田安夫	井料隆雅

* 自然科学系先端研究融合環所属

発行者：暁木会

連絡先：会計幹事 濱村吉昭 ㊟

神戸市建設局道路部工務課

Tel：078-322-5432

Fax：078-391-7773

E-mail：info@gyoubokukai.jp

http://www.gyoubokukai.jp